

A. 主な動き

1. 内政

- ・28日、ブラホドニク民主党第一副党首は、社会活動に専念するため議会議員を辞職する意向である旨表明。31日、議会は、同議員の辞職を承認。
- ・28日、フィラト自由民主党党首及びルプ民主党党首は、共産党が11月3日に実施予定の与党集会への対抗手段としての集会を予定していることを非難。29日、レアンカ首相は、共産党には野党としての建設的な姿勢を求める旨発言。31日、ティモフティ大統領は、集会は法規定によって認められた範囲内で実施するよう呼びかけ。
- ・1日、コルマン議会議長は、EUとの連合協定及び査免協定に向けた議会声明作成のための作業部会を設置。与党連合は、議員特権の廃止を目的とした法案を議会に登録。

2. 外政

▼リンケビチュウス・ラトビア外相の来訪

- ・29日、レアンカ首相は、来訪したリンケビチュウス・ラトビア外相と会談し、2015年にリガにおいて東方パートナーシップ首脳会合が開催されることから、モルドバの欧州統合に向けたビリニウス・サミット後の課題に関し協議。レアンカ首相は、モルドバの国内改革及びインフラ整備計画に関し説明し、リンケビチュウス外相は、改革の成果を歓迎し、モルドバの欧州統合路線を支持する旨発言。
- ・29日、ゲルマン副首相兼外務・欧州統合相は、リンケビチュウス外相との会談において両国間貿易及び投資の拡大による経済関係の活性化、モルドバの改革に対するラトビアの支援等に関し協議。
- ・30日、ティモフティ大統領は、リンケビチュウス外相と会談し、モルドバの欧州統合問題及び国内改革等に関し協議。
- ・30日、コルマン議会議長は、リンケビチュウス外相と会談し、

モルドバの国内改革の現状、ビリニウス・サミットにおける連合協定仮署名の展望、モルドバ国民に対するEU査証の免除化及び両国議会間関係を含む二国間関係等に関し協議。

▼その他

- ・29日、親欧与党連合3党のフィラト、ルプ及びハダルカ代表は、ブリュッセルを訪問し、フィーレ拡大・近隣政策担当欧州委員と会談。双方は、ビリニウス・サミットの準備状況及びサミット後のプログラムに関し協議。

3. 沿ドニエストル

▼レアンカ首相・シェフチューク「大統領」の会談

- ・30日、独ランツフートにおいてOSCE主催による「沿ドニエストル紛争解決プロセスにおける信頼醸成措置」会議が開催され、レアンカ首相、シェフチューク「大統領」及びOSCE議長国ウクライナのゴジャール外相等が出席。レアンカ首相は、対話の継続、自由な商取引、沿ドニエストル地域の地位を含む政治的問題に関する協議及び「5+2」による「安全地帯」の監視の開始等の重要性を指摘。シェフチューク「大統領」は、「安全地帯」における国際監視団の活動には反対である旨表明し、EUが沿ドニエストルとの貿易のための特別の形式を用意することを期待している旨発言。ゴジャール外相は、定期的な対話が継続されたことを評価し、紛争当事者双方に地域の安定と平穏を維持するよう呼びかけ。
- ・30日、レアンカ首相及びシェフチューク「大統領」は、ゴジャール外相及びリンク独外務担当国務相同席のもと会談し、移動の自由、グラ・ビクルイ村の橋の開通、旅客及び貨物輸送の簡素化等の問題に関し協議。EUとのDCFTAに関連し、レアンカ首相は、2015年末まで沿ドニエストル地域からEUへの輸出に関しては従来の規則が適用される旨発言。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。
(了)